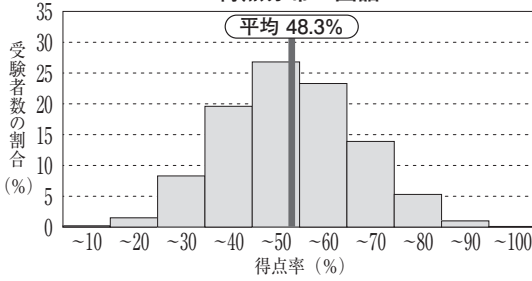


一ヶ月おきに実施される模試をペースメーカーとして、センター試験の勉強を進めていこう！

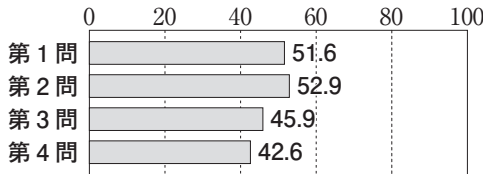
I. 全体講評

「第1回2月センター試験本番レベル模試」国語の平均点は九六・五点（二〇〇点満点）であった。1月に実施された「センター試験同日体験受験」を受験した諸君の中にはそのときより得点が下がってしまった諸君もいるであろう。実は、二〇一九年のセンター試験は、二〇一八年よりも約

得点分布 国語



大問別得点率 (%)



二〇点受験生の平均点が高く易しめであった。例年は、今回の模試程度の難度はあるので、このレベルに対応できるようにしたい。東進では一ヶ月おきに、センター型の模試を実施しているので、今回の結果からスタートし、いつの試験にどこまで仕上げるか年間の目標を立てよう。一年後に志望校合格に必要な得点がとれるよう、計画を立て、しっかりと勉強を続けよう。

また、センター試験の国語は、分量も非常に多い。難度的には対応できたとしても、スピーディに解けないと得点できない。学力を上げるのは当然だが、模試で実戦演習を繰り返すことで、ポリウム感と読解スピードも身につけよう。「学力がついてから模試を受ける」と言う人がたまにいるが、それではいつまでたっても模試は受けられないし、実戦力は身につかない。

なお、今回の各大問の得点率は上記の通りである。どの分野もまだまだ伸ばしていく必要がある。第1問の評論は、論理的な読解を意識したであろうか。第2問の小説は心情を客観的に捉えられたであろうか。第3問・第4問の古文・漢文は、古典文法・句法にそっての読解ができたであろうか。なんとなくわかる部分をつないで読んでいたのでは、国語で毎回確実に得点することはできない。ぜひ、春休みが終わるまでに、ベースと

なる読み方を確認し、読むために必要な基礎知識を身につけてしまおう。今回の問題の復習は、解説授業も活用して、しっかりと行なおう。

「模試の受験」↓「復習と結果の分析」↓「次の段階に向けての課題の設定」↓「計画的な学習による課題の習得」のプロセスをぜひ実行してほしい。そして、「問題が解けるようになった！」という実感を、毎回、模試を通じて得てほしい。着実にこれから一年、勉強を進めていこう！

II. 大問別分析

第1問 (評論)

間違えた問題はすべて「伸びしろ」。しっかりと復習して弱点を補強しよう！

今回の第1問の得点率は、五一・六%で、難しく感じた受験者が多かったようだ。模試の成績が下がると、実力も下がったと思う生徒がいるが、ほとんどの場合、そうではない。問題が難しかったのだ。だから、悲観する必要はないが、今回のレベルの問題はセンター試験で出題されるので、対応力は付けたい。しっかりと復習し、自分に足りない視点、知識を身につけよう。

問1の漢字問題で正答率が低かったのは(ア)で二九・九%であった。ここは文脈からして「遺物」

でなければならぬが、「異物」を思い浮かべて①を選んでしまった受験者が多かったようだ。「遺物」は「遺した物」あるいは「遺された物」、「異物」は「異なる物」。熟語は分けて訓読みでさるようしておこう。ちなみに(オ)で①実績を選んだ受験者が二割ほどいた。「積」と「績」は混同しがちなので気を付けよう。「実績」、「業績」など「成績」に関連するものは糸偏である。

問2の正答率は四七・二%。具体例と、具体例をまとめている部分を区別して読めていたか否かが正否を分けたようだ。問3の正答率は今回最も低い二二・二%だった。問5(四六・三%)もそうだが、この時期の受験者の弱点として、「なぜか」と問う因果関係の設問がある。解説を熟読して、早いうちに苦手を克服してもらいたい。

問4の対話形式の設問はそれほど紛らわしい選択肢もなく、正答率七〇・七%と好調であった。

問6の(i)は正答率五一・一%とやや低調。カギカッコの意味を問う問題は苦手とする受験者が多いが、受験では頻出の問題である。これも解説を熟読してしっかり理解しておいてほしい。

## 第2問 (小説)

孤独を好み、屈折した主人公の内面をしっかりと把握して、選択肢を検討していこう

第1問(評論)と同様、五〇%台の得点率であった。少し時代は古いが、高校生だった主人公と友人との関係について触れた部分を含んでいるので、それほど難しくはないはずだが、やや屈折した内面の表現に惑わされたようだ。微妙な心理

に注意し、選択肢を慎重に検討しよう。

問1では(ウ)の「うとましく」の正答率が三九・三%とかなり低かった。「疎ましく」と漢字で覚えると意味もイメージしやすくなるだろう。

問3の正答率は四五・五%で、⑤の選択肢が二九・三%もあった。傍線部直前の「弱者の味方」などと彼に思われることは仮定の話である。

問4の正答率は三〇・一%で、大問中で最も低かった。誤答では②が四八・六%と正答よりも多い。「劣等感に苦しめられる」という意識は、孤独を好み自分の道を進む主人公とは無縁だろう。ポイント「彼の部屋は、そこが『家』だということである。どこへ行こうと、必ずそこへ帰って来なければならない」という、暖かい家・家族を持たない主人公の殺伐とした境遇を捉えよう。

問5は三行選択肢で、四二・二%の正答率と低かった。④⑤を選んだ諸君が多いが、④は主人公がSとの濃い友情を求めないタイプの人間であること、⑤は「ようやくSを抜いた」といつてもそれは「立場が逆転した」ことにはならず、誤り。

問6の表現の設問は、選択肢③の正答率が四八・三%、⑤は五四・一%ともう一歩である。誤答としては、①の選択肢が四二・二%もあった。「小説の作者と創作上の人物である『彼』の内面が近接している」とは、この小説を書いた作家の心境なのか、「彼」という主人公の心境なのか、紛らわしいことである。例えば、「Sはいいヤツだ」という心中思惟が「そのとき、彼はSはいいヤツだと思った」という表現をとらず、作家の独言のようにじかに記されているのである。

## 第3問 (古文)

語彙や文法の学習を早めにスタートしよう!

室町時代の本地物「鹽竈大明神御本地」から、桃園の中將に陥れられて奥州に流された花園の少將と、恋仲にある姫君の苦悩を描いた場面である。全体の得点率は四五・九%で、問1・問2・問5など、語彙や文法知識で選択肢を絞れる問題でも得点源にできていないことが目立つ。知識面の勉強を本格スタートさせよう。

問1の語釈問題は、(ア)が「さらに」、「心安し」の意味、(イ)が「うたてし」の意味で判断する語彙の問題で、それぞれ五割と四割弱の正答率であった。「心安し」は選べていたが、「さらに」を現代語のように「ますます」にした④への誤答が四割もあった。同様に「うたて」も文脈としてはありそうな④への誤答が多かったが、語義から離れる選択肢は選べない。(ウ)は反語文で、必ず巡り逢う、という内容だが、巡り逢えない、巡り逢いたい、への誤答が多かった。

問2は一文中の単語の文法的説明の問題で、確定条件の接続助詞「ば」の用法が正解となる。正答率は四割を切った。文法問題は確実に得点したい。

問3は会話文の内容説明の問題で、姫君の母は、娘がやつれていく理由もわからず桃園の中將との縁談をすすめ、娘の姫君は、中將程度では縁談の対象にはならないことを述べて断っている。正答率はちょうど五割ほどであった。誤答②は、やつれる理由は一人身であることだと特定してお

り、また姫君も中將との縁談を望む内容で本文とは反対の内容であるが、二割も誤答があった。

問4は、心情説明の問題で、母の勧める縁談に従えない姫君が、女の身で奥州にも行けず、死を決意する④が正解であり、四割弱の正答率であった。誤答で最も多かった③は、月冨とともに死ぬとは考えている内容だが、本文では残される月冨が気の毒だと悲しんでいるに留まる。姫君のそれぞれの人に対する思いを整理して読み取る。

問5は三首の和歌の内容についての説明問題で、四割の正答率であった。誤答③は現在推量の助動詞「らむ」を他者に対する願望「〜てほしい」のように解釈している点で不適当で、文法問題に近かったが、三割も誤答してしまっていた。

問6の内容合致問題は、正答率六割を超えてよくできていた。母親に少将への恋心に気づかれたとする誤答がやや多く、二割弱であった。

#### 第4問 (漢文)

句法や語彙、筆者の主眼など、設問の意図を意識して選択肢を吟味しよう。

司馬遷『史記』から、武帝のおぼえめでたい郭舎人という芸人が、流罪にされそうな乳母を情に訴える演出で助ける文章の出題である。全体の得点率は、四二・六％で、読解問題では正答率が三割四割であるものが多く、設問や、選択肢吟味のポイントが見抜けていないようである。

問1は、語の意味の問題で、①の「致す」は多義語だが、五割弱の正答率であった。「働きかける」への誤答が二割あった。②の「数」は「しば

しば」という読みも重要であるが、正答率は七割をこえてよくできていた。

問2は、送り仮名のない傍線部の解釈の問題でAは逆接と使役に注意して③を選ぶが六割弱の正答率があった。使役はできて順接にした誤答がやや多かった。Bは二重否定の句法に注意して強い肯定を表す選択肢を選ぶが、三割弱の正答率で、「未だ」にひかれて「まだ」とした③への誤答が四割弱あり、正答率を越えていた。

問3は、乳母の家を辺境に追いやる理由を問う問題である。横暴な態度でふるまう乳母一族も乳母が流罪にされれば力がそぎ落とされると考えたものであるが、法律に照らして流罪が妥当であるとした②への誤答が多く二割強あって、正答率の三割に迫る勢いであった。横暴に対して法律による罰が明確に下されたわけではない。

問4は乳母が郭舎人に助けを求めて会いに行つたことを読み取る。四割弱の正答率であった。郭舎人が実際に助言したのは、去り際にふりかえって未練をみせるということであったが、その後はどうするかなど詳細な打ち合わせはしていない。具体的に打ち合わせをしたように書かれている④への誤答が二割を超えた。

問5は、反語の句法と再読文字に注意して解釈する問題で、わざと郭舎人が乳母をなじる発言である。五割にせまる正答率であった。誤答でやや多かった①・④は、「壮年」という言葉にひかれ「大人」を強調した選択肢を選んだようである。

問6は本文全体の趣旨を問う問題で、正答率は四割を切った。主眼は郭舎人の機転にあり、

④・⑤に絞って選びたいが、乳母や武帝に主眼があるとした①・②・③への誤答が合計で五割を超えてしまった。漢文は、必ずしも正しい行いを教訓的に説く文ばかりではなく、こうした狡猾ともいえる機転に着眼している文章も充分にありえる。筆者の主たる視点を捉えるようにしよう。

### Ⅲ. 学習アドバイス

◆現代文は、読解法を確認するとともに、語彙を増やそう！

現代文は、日本語で、なんとなく読めてしまうため、思い込みや自己流の勝手な想像で「なんとなく」問題を解いている諸君がいるが、それでは安定した読解力はつかない。評論・小説の問題はどういう点に注意して読解すればよいのか確認し、それにしがたがって読解するようにしよう。そしてそれとともに、漢字と語句は必須の課題であり、軽んじてはならない。地道に覚えていく努力を続けよう！

◆古典は、基本的な文法と古語、漢文の句法と重要漢字の習得が必須だ！

古典の読解は、基本的な文法と古語、漢文の句法と重要漢字の習得が必須である。これらを身に付けずに、古典は絶対に行けるようにはならない。具体的な目標とスケジュールに即し、習得しよう。少なくとも春休みの終わりまでに一通りは確認しておこう！